JSS/KSES(韓国肩肘学会)Travelling Fellow 帰朝報告

整形外科学教室 講師(准) 長谷川 彰彦(2002年入局)

はじめに

2023 年 3 月 6 日から 4 月 2 日の 4 週間、日本肩関節学会(Japan Shoulder Society: JSS)と韓国肩肘学会(Korean Shoulder and Elbow Society: KSES)の間の交換留学制度、JSS/KSES Travelling Fellowship にて韓国の19 の施設訪問とKSES annual meeting に参加する機会をいただきましたので報告いたします。

韓国での4週間の滞在先ホテル、フライト、韓国内の移動に至るまで全てKSESが手配してくださいましたので、事前の準備は荷造りと手土産購入だけでした。出発当日はもう一人のfellowである広島大学の原田洋平先生と関西国際空港で待ち合わせ、カカオトーク(日本で言うところのLINEに相当するアプリ)をインストールして釜山空港へ向けて出発しました。

1週目

釜山空港に到着するとYoung Dae Jeon 先生 (Ulsan University Hospital) が迎えにきてくれて、 早速昼食とUlsan 観光に連れて行ってくれました (写真1)。



写真 1. 左から Seong Cheon Na 先生、筆者、原田洋平先 生、Young Dae Jeon 先生

この週は、Sang-Hun Ko 先生 (Ulsan University Hospital) (写真 2)、Chang-Hyuk Choi 先生 (Daegu Catholic University Medical Center) (写真 3)、Jun Bum Kim (Soon Chun Hyang University Hospital) 先生 (写真 4)、Jong-Hun Ji (Daejeon St. Mary's Hospital) 先生を訪問しました。Chang-Hyuk Choi 先生は全身麻酔は行わず神経ブロック下に手術を行っており、患者さんが手術を受けながら関節鏡のモニターを見ておられたのが印象的でした。金曜日にはDaejeon-Chungcheong Provinceのmini-



写真 2. Sang-Hun Ko 先生(中央)と



写真 3. Chang-Hyuk Choi 先生(左端)、Jong Pil Yoon 先生 (右から2番目)らと



写真 4. Jun Bum Kim 先生と



写真 5. Kwang Jin Rhee 先生(前列中央)を囲んで。前列 左端にJong-Hun Ji 先生、左から2番目にKwang-Won Lee 先生

symposium にて韓国肩肘会のレジェンド、Kwang Jin Rhee 先生の前でpresentation する機会をいただきました(写真 5)。私は腱板広範囲断裂に対する鏡視下肩上方関節包再建術の臨床研究と基礎研究に関して発表し、温かい労いのコメントを頂戴しました。土曜日はDaejeon 観光に連れて行っていただき、麻谷寺(マゴクサ)、武寧王陵、公山城(コンサンソン)を訪れました。日曜日はGwangju(光州)への移動日でしたが、昨年、韓国からのトラベリングフェローとして日本(大阪医科薬科大学も)を訪問されたMyung Sun Kim 先生ご自身が駅のホームまで迎えに来てくださり、昼食から早速ポッタンジュ(爆弾酒)で歓迎してくれました。

2週目

Myung Sun Kim先生 (Chonnam National University Hospital) (写真 6)、Young Lae Moon

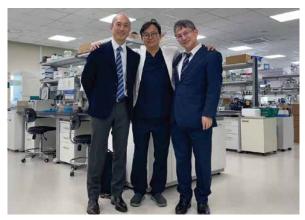


写真 6. Myung Sun Kim 先生(中央)と



写真 7. Young Lae Moon 先生(右端)と

先生 (YM Orthopaedic Hospital) (写真 7) を訪問 したあと、ソウルに移動し、Yon-Sik Yoo 先生 (Camp 9 Orthopedic Clinic) (写真 8)、Sang-Jin Shin先生(Ewha Womans University Seoul Hospital) (写真 9)、Jae Chul Yoo 先生 (Samsung Medical Center) (写真 10) を訪問しました。Myung Sun Kim 先生は2022年、Yon-Sik Yoo 先生は2014 年、Sang-Jin Shin 先生は2016年にトラベリング フェローとして来日されており、その際にご一緒し た食事会の写真などをお見せすると懐かしそうにし ておられました。また、嬉しいことに、Myung Sun Kim 先生と Yon-Sik Yoo 先生からは「トラベリング フェローで来たのがお前でよかったよ。」と言ってい ただきました。Young Lae Moon 先生は手術の間に 外来を挟むスタイルで、手術と手術の間の入れ替え 時間に外来に降りて診察をされており、とても効率 的に仕事をしておられました。肩甲下筋腱断裂手術



写真 8. Yon-Sik Yoo 先生(右端)、Sangjin Lee 先生(右から2番目)、Sungjoon Lim 先生(左端)と



写真 9. Sang-Jin Shin 先生(中央)と



写真 10. Jae Chul Yoo 先生(右端)と

のエキスパートである Jae Chul Yoo 先生は肩甲下筋腱断裂の grade が低いものから高いものまでひととおりの症例を揃えて手術を見せてくださいました。

週末は釜山ツアーが予定されており、土曜の午後からKTXに乗ってソウルから釜山まで2時間半かけて移動しました。日曜日はYoungbok Kim 先生にガイドしていただき、荒嶺山(ファンリョン)烽燧台、在韓国連記念公園、五六島(オリュクト)スカ

イウォークを訪れ、松島海上ケーブルカーに乗った あと、再度 KTX で釜山からソウルに戻りました。 ソウル駅ではJieun Kwon 先生(Ewha Womans University Mokdong Hospital)が迎えにきてくれ、 ホテルまでタクシーで送り届けてもらいました。こ の日は韓国に来て初めて休肝日を設けることができ ました。

3週目

Jin Young Park 先 生 (Neon Orthopaedic Clinic) (写真 11)、Yang Soo Kim先生 (Seoul St. Mary's Hospital) (写真 12)、Sae Hoon Kim先生 (Seoul National University Hospital) (写真 13)、Young Kyu Kim先生 (Gacheon University Gil Medical Center) (写真 14)、Joo Han Oh先生 (Seoul National University Bundang Hospital) (写真 15) を訪問しました。



写真 11. Jin Young Park 先生(中央)と



写真 12. Yang Soo Kim 先生(中央)と



写真 13. Sae Hoon Kim 先生(中央) と



写真 14. Young Kyu Kim(右から2番目)と



写真 15. Joo Han Oh 先生(中央)と

Jin Young Park 先生は多くのプロ野球選手を含めたトップアスリートの治療を手掛けておられる先生で、この日もプロ野球の投手、女子バレーボール選手が受診に来ていました。外来は4部屋を巡回するようにして進めており、この日は13:00~18:20までの間に64人の診察をされていました。診察は丁寧で、まず理学所見をとった後、初診患者さんについては単純 X 線、エコー(エラストグラフィーも)を使って病態を説明し、ホームエクササイズの

指導をするというスタイルでした。術後のフォロー にもエコー (エラストグラフィーも) を使っておら れ、リアルタイムに説明しながら患者さんに指導す る姿が印象的でした。夕食は和食レストランに連れ て行っていただいた後、ご自宅に招いていただき ました。とても景色のいいリビングで奥様の料理 とワインでおもてなしくださり、素晴らしい思い 出となりました。Yang Soo Kim 先生は2022年の KSES の president です。 腱板大・広範囲断裂に対 して biceps rerouting と、アキレス腱の allograft を 用いたLower Trapezius transfer を見せていただき ました。Sae Hoon Kim 先生は2018年にトラベリ ングフェローとして来日され、大阪医大にもいらっ しゃったのですが、その時のことも覚えてくれてい て、とてもフレンドリーに接してくださいました。 手術は筋前進術を併用した鏡視下腱板修復術を見せ ていただきました。Young Kyu Kim先生には2019 年のGachon shoulder symposium に三幡先生と一 緒にお招きいただいたことがあったのですが、同病 院のKyu Hak Jung 先生とともにとても親切にして いただきました。Joo Han Oh 先生は韓国肩学会の第 一人者で、国際学会に行けばほぼ毎回お会いする先 生ですが、恐れ多くも朝6:15にOh 先生自らホテ ルに迎えにきてくださいました。7:30から肩チー ムの Mini symptom で発表させていただきましたが、 自チームの発表内容に対しては鋭い(厳しい?)ご 指摘をしておられて締まりのある雰囲気でした。手 術中にはコンセプトやテクニックについて多くの説 明をしていただきましたが、こちらからの質問に対 しては必ずご自身の論文をベースに、エビデンスに 基づいた回答をしてくださったことと、その際にも 手術のスピードが落ちないのがとても印象的でした。 また、術中もフェロー、レジデントを厳しく指導し ておられましたが、その分、助手をつとめる先生方 は皆、緊張感があり集中して手術に参加しているの がよく伝わってきました。

土曜日はJae Hoo Lee 先生とHo Won Lee 先生が ソウル観光に連れて行ってくれました。トルコ、タ



写真 16. 北村韓屋村(プッチョンハノンマウル)にてタイ からのフェローと

イからのトラベリングフェローとともに韓国王朝の服をレンタルして景福宮(キョンボックン)を観光しました。この日はCovid-19による規制が解禁されて初めての週末ということで多くの観光客で賑わっていました。景福宮の後は北村韓屋村(プッチョンハノンマウル)という、朝鮮時代(1392~1910)から残る韓国の伝統家屋街を訪れました(写真16)。ここはいかにも観光地といった感じで京都に似た雰囲気でした。夕食はJieun Kwon 先生と Myung Seo Kim 先生が合流し、またまた soju とポッタンジュの応酬となりました。

日曜日はトルコからのトラベリングフェローとともに朝8:30にホテルを出発してDMZツアーに連れて行ってもらいました。DMZというのは非武装地帯(demilitarized zone)のことで、陸上において韓国と北朝鮮との実効支配地域を分割する地帯のことです。DMZツアーの後は汝矣島(ヨイド)でHanriver cruise に参加させてもらいました。

4週目

Woong Kyo Jeong先生(Korea University Anam Hospital)(写真17)、Kyu Cheol Noh 先生(Hallym University Kangnam Sacred Heart Hospital)(写真18)、Chris Hyunchul Jo先生(SMG-SNU Boramae Medical Center)(写真19)、Yong Girl Rhee先生(Myongji Hospital)(写真20)を訪問し、最後にKSES annual meeting に参加しました。Woong Kyo Jeong 先生はとても人当たりの



写真 17. Woong Kyo Jeong 先生(右端)と



写真 18. Kyu Cheol Noh 先生(中央) と

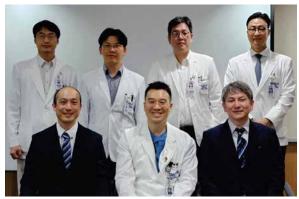


写真 19. Chris Hyunchul Jo 先生(前列中央)と



写真 20. Yong Girl Rhee 先生(中央)を囲んで

良い先生で、2024年のトラベリングフェローシップで是非とも日本に行きたいとおっしゃっていました。Kyu Cheol Noh 先生は2018年にトラベリングフェローとして来日された先生です。手術後にお土産としてオペ室用の帽子をいただき、ホルモンBBQに連れて行っていただきました。ここでYong Tae Kim 先生からは日韓の国旗を模ったピンバッジを、Jung Youn Kim 先生から寄せ書き入りのゴルフボールとマーカーをいただきましたが、彼らの参加によりこの日はこれまでで最大の飲酒量になり、記憶は途切れましたが大変印象に残るディナーとなりました。

翌日は2022年のtraveling fellowとして来日したChris Hyunchul Jo 先生を訪問しましたが、案の定、前日の深酒の影響を受けて二日酔いのままの訪問となったため、「What happened? You look completely different!」と驚きの表情で迎えられてスタートしましたが、朝からプレゼンテーションの機会をいただいた後、その後に筋前進術を併用した腱板修復術など5件の手術を見せていただく中で二日酔いから回復しましたので、この日もきっちり二次会まで連れて行っていただきました。

学会前最後は韓国肩肘学会のBig boss、Yong Girl Rhee 先生を訪問し、8件の手術を見せていただきました。最後に見学した手術がSCR(肩上方関節包再建術)であったのは偶然かもしれませんが、粋な計らいのように思えました。手術後はKSES committee member、invited speaker たちとのディナーに招いていただき、大変貴重な機会をいただきました。

Traveling fellowの最後は30th Annual International Congress of the Korean Shoulder and Elbow Society(KSES)に参加しました。学会も案の定、午前中は二日酔いの状態でしたが、これまでに訪問先で出会った先生方に数多く声をかけていただきました。事前に応募していた一般演題に加えて、Traveling fellow session での発表を無事に終え、会長のSang-Jin Shin 先生から立派な certificate をいただいた時には4週間を何とか完走できた安堵感がありました(写真21)。



写真 21. Sang-Jin Shin 会長(中央)を囲む日本、トルコ、 タイからのトラベリングフェロー

おわりに

JSS/KSES Travelling Fellow として4週間、韓国における肩関節外科の治療について多くのことを学ぶことができました。また、Host surgeon として私たちを迎えてくださった先生方、フェロー、レジデントも含めてKSES member の皆様には大変手厚いおもてなしをいただきました。お迎えはホテルロビー、お見送りは駅のホームで電車が出るまでと徹底したhospitalityでした。さらに同世代の先生方とも親交を深めることができ、とても充実した日々を送ることができました。

このような貴重な機会を与えていただきました根 尾昌志教授、温かく送り出していただきました三幡 輝久准教授と整形外科医局の先生方、同門の先生方 にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。あり がとうございました。